

③ 気をつけたい2つのこと

i 「甘やかす」と「甘えさせる」には、違いがあります。

「甘やかす」ことは、可愛いからおもちゃを買い与える、子どもができることでも手を貸すなど、大人の都合で対応することなので、子どもがわがままな子どもになりやすくなります。

「甘えさせる」ことは、スキンシップをとるなど、子どもの心の欲求に応えることです。子どもの心のエネルギーが、きっと充電されるでしょう。

ii 「認める」といっても、悪いことまで認めないようにしましょう!!

生活を営むうえで、しつけは非常に大切です。

例えば、人に迷惑をかけたたり悪いことをしたりした時は、きちんと叱る必要があります。社会に出たときに良好な人間関係を作れる基礎を、家庭で育てていきたいものです。

④ 目を向けてください「親の自己肯定感」

有識者の参考になる言葉です。

「この子はこの子でいいんだ 私は私でいいんだ」

精神科医・スクールサポーター 明橋 大二氏

毎日の生活が子ども中心になっている親の皆さんは、少なからずいるのではないのでしょうか。毎日の子育てや仕事などによりとても疲れているときなど、子どもの笑顔や思いがけない一言でいやされたり、救われたりすることもあることと思います。

子どもの自己肯定感を育むための大切なものとして、親の自己肯定感があります。親は大人のため、とかく我慢をしまいがちですが、「心のゆとり」がなければ子どもと良い状態で向き合うことは難しくなります。忙しい時こそ自分のための「ゆとりの時間」を意識的に持ち、自分を大切にしたいものです。

親の自己肯定感を育む要因は次のとおりです。

【イメージ図】

